



Vamos juntos



No.4

文責 小坂佑騎

アリアンサは入植 95 周年！！

11月20日(水)はアリアンサ入植記念日です。今年で入植95周年になりました。長野県からも長野県議会議長はじめ4名の方に来賓としてお越しいただきました。当日は36℃を越える暑い日になりましたが、式典は盛大に執り行われました。会の中では、日本語学校の高校生がアリアンサの行事や歴史について日本語で発表しました。1号にも紹介したように、アリアンサという名前は故輪湖俊午郎さんが命名し、意味は「協力」「共生」などの意味があり、生徒は調べたことを、長野県の来賓の皆様に表示していました。また、日本語学校の歴史についても紹介し、入植当初は学校がなく、家でご両親から日本語を習ったり、日曜学校といって教会や先生の家に行つて勉強をしたりしたそうです。また、戦時中はブラジル国内でも日本は敵性国として日本語の使用禁止などの制限もあったそうです。学校では「Não fale japonês! Aqui é Brasil. (日本語を話すな。ここはブラジルだ)」と怒られたようです。そのような影響もあつて2世、3世と代を重ねるごとに日本語が少しずつ話せなくなつてきたようです。それでも戦時中、日本語を勉強するために夜に先生の家を集まつて勉強したようです。今では、ブラジルの学校が終わつてから日本語学校で勉強できるようになりました。先日ブラジル人の生徒が増え、現在20名の生徒と日本語を勉強しています。日系の家族だけでなく、ブラジル人の人たちも日本語や日本の文化に興味をもつて勉強してもらえると嬉しいことだと思います。



長野県より記念品として飯田水引が贈られました



日本語学校生徒による学習発表

敬老会

入植95周年式典後に敬老会があり75歳以上の67名が表彰され、第一アリアンサ文化体育協会と長野県からプレゼントが贈られました。特に、長野県からのプレゼントは来賓代表の長野県議会議長が直接手渡され、手渡す際に「おいくつですか、これからも健康に気を付けて」などの言葉を添えられました。高齢者の方はこんなことは初めてだと、とてもうれしそうにされていました。



長野県会議長から一人一人に記念品を贈られました。



日本語能力試験に向けて勉強しています

12月1日（日）に、日本語能力試験があります。第一アリアンサ日本語学校の中学生以上の生徒も能力試験に向けて勉強しています。将来日本へ行ってみたいという強い思いをもって勉強している生徒も多く、難しいと言いながらも一生懸命勉強しています。特に漢字はとても難しいようです。日本語を教えていると、英語もポルトガル語（ブラジルの公用語）もアルファベットだけ覚えたら、読み書きができるけれど、日本語はひらがな、カタカナ、漢字、アルファベットと覚えることがあってとても大変という話がよく出ます。それでも、日本の文化に興味をもって一生懸命勉強してくれることは、日本人としてとてもうれしいことだと思います。またその姿を見て、私自身もっと日本について勉強しなければならないなと思います。



模擬テストの様子



低学年の学習の様子

ブラジルでの再会

日本を出発する前に佐久市役所でお会いした賀沢マリアさんが、アリアンサの隣町にあるご実家に招待してくださいました。お母さんは戦前、お父さんは戦後に移住されお二人ともお元気で、移住当時やブラジルでの生活についての貴重なお話を伺える機会をいただきました。



昼食をごちそうになりました